学習ポートフォリオシステムの利用

KITポートフォリオシステムとキャリア教育

金沢工業大学

「社会で自分を生かして生きていく力」を「KIT 人間力」(自律と自立、リーダーシップ、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、コラボレーション能力)と定め、大学教育カリキュラム全体に具体的に盛り込み、それを評価する複数のポートフォリオを用いて修学とキャリアデザインを連結する仕掛けを実践し効果を上げている。

1. 導入の経緯

「自ら考え行動する技術者」を育てるためには、学生に「人間力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」などの不足に自ら気づかせ、実行し、身につけさせるための教育的仕掛けと、教職員の修学支援に対する意識改革、教育支援が必要となる。このような教育を実現するため、学生の日々の修学生活における活動や成果を記録保管し、それを学生と教員が相互確認しつつ、自己実現を支援することを目的としたポートフォリオの活用を考案し、平成16年度から全学規模で運用している。

2. 利用形態

「KIT ポートフォリオシステム」は、学生が修学の経過・成果を含めた多種の情報を記録・蓄積することによって、大学生活における向上過程を省み、将来への展望を

学生自身による目標の設定

| おっと | マート | フェット | マール |

構築するためのツールであり、学生が自ら作成する「第2学籍簿」である。

(1) 修学・生活・キャリアに関係するポートフォリオ

全学必修の①「1週間の行動履歴」、②「各学年の達成 度評価ポートフォリオ」③「キャリアポートフォリオ」 があり、その目的は、1)自学自習の姿勢を身につける、 2)生活スタイルを確立する、3)自己の目的指向を高める である。

「1週間の行動履歴」の登録項目は、1)1週間の優先順位事項とその達成度、2)欠席・遅刻科目とその理由、3)自学自習内容とその所要時間、4)課外活動(利用した教育施設、クラブ活動、ボランティア、アルバイトなどと活動時間帯)、5)健康管理(朝昼夕食の摂取、睡眠時間、自主的運動時間)、6)1週間を通して満足したこと・反省点や質問などである。

学生は毎週担当教員に提出し、教員はコメントを付け

		今週の ⊕: 達成で る	優先順位(生活・課題等 た、O:ほぼ達成でき	を含め、今週中に連成すべき事 と、Δ:行動したが未連成、×:行	可) 動せ3	,			達成度 価
0	木曜日の設計演習のエスキスをしっかりする								0
0	宅建の勉強に毎日二時間は時間をとる								0
3	学校に早く慣れる								
	曜日	欠席-選到科目· 理由	子習·復習·課題 ·所要時間(分)	部活動・利用施設・アルバイト などの内容・時間帯		段排		睡眠時間 (時間)	積極的 運動時 (分)
9/27	В		設計演習(120) 宅 建(120)	アルバイト16:00~22:00	0	0	0	6	0
9/28	月		宅建(120)	アルバイト16:00~22:00	0	0	0	6	0
9/29	火		設計演習(120) 宅 建(120)ゼミ手伝 し(240)	SA 14:40~16:25 模型室 16:00~22:00	0	0	0	6	0
9/30	水		設計演習(300) 宅 建(90)	LC 9:00~12:00	0	0	0	3	0
10/1	木		宅建(120) ゼミ手 伝い(300)	模型室 16:00~23:00	0	0	0	5	0
10/2	金		ゼミ手伝い(300) 宅建(120)	模型室 10:00~16:00	0	0	0	7	0
10/3	±		宅建(120)	アルバイト16:00~22:00	0	0	0	7	0
				とその対策、日常生活にお かった。しかし、宅建の勉強は こ、来週から設計の課題も大					

て翌週に返却する。さらに学生はそのコメントを「教員コメント欄」に入力し1週間分が完結する。 これを年間 30 往復することで、自己管理と自己評価を習慣化し、タイムマネジメントの基礎を身に つけさせ、修学のモチベーションを向上させようと試みている。

(2) 達成度評価レポート

達成度評価レポートは1~3年次の年度末に各種ポートフォリオに登録した情報をもとに作成する もので、各年次の年度末報告書である。教員は新学年の4月に全学年で実施する個人面談時に、新年 度の計画と方向性について学生と相互検証する。

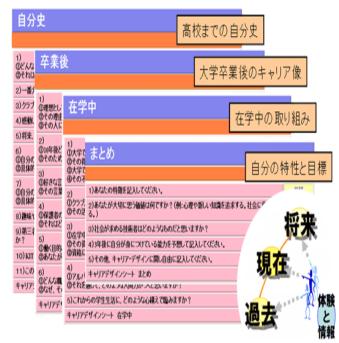
登録内容は、1) 今年度の目標と達成度自己評価、2) 今年度の修学・生活状況の反省およびその改善方法、3) 希望進路とその実現に向けて実際にとった行動・成果・展望、4) 「KIT 人間力」の達成度自己評価、5) この1年間の大学生活において自分自身で最も成長したと思うことの具体的な事例とその理由、6) 次年度の目標とこれを達成するための行動予定である。

(3) キャリアポートフォリオ

キャリアポートフォリオは、自己分析・自己評価・自己認識のために活用するもので、「高等学校までの自分史」「大学卒業後のキャリア像」「大学在学中の取組」「自分の特性と目標」を順番に作成する。

過去を振り返り、将来に対する見通しをもって、現在の自己の特性や状況を分析・評価・把握し、人生を設計する一連の作業は、キャリア像を媒体として大学生活における修学モチベーションを高めるために必要である。当然ながら、キャリア関係の講話やグループ討議と連動し、社会と自分との関係、クラスメートの考え方などを認識・理解しながら、自身の将来を設計することになる。

このように、学生は目標を設定し(Plan)、目標を達成するための活動プロセスや成果を記録し(Do)、それをもとに目標への達成



度を評価し (Check)、次年度に向けた改善を図り、活動計画を作成して実行する (Action)、という PDCA サイクルを回すことになる。教員はこれにフィードバックを継続し、学生の現在と未来をともに 考える。つまりポートフォリオは、自己成長の軌跡と修学の自覚・自信・反省から、社会人・技術者 になる意義と意欲を高めるための有効なツールなのである。

つまり本システム全体を用いて、4年間の修学生活と学年ごとのキャリアデザインを併用し、学生が PDCA をあまり意識することなく自然に回すように向かわせることが、本学のキャリア教育のひとつである。

3. 導入の成果

以上のように本学のキャリア教育の特徴は、学生が複数のポートフォリオから小さな「気付き」や「自信の芽生え」を読み取り、目標への接近度や達成度の定点確認を行い、次の行動設計に反映さて

いく自己成長型で、しかも重層構造であることにある。

平成 15 年度までの入学生の QPA (Quality Point Average)は2年次終了時には1年次終了時より下がっていたが、ポートフォリオを導入した16年度入学生から上昇に転じた。これがもっとも大きな成果とみている。また、16年度から20年度の授業アンケート「自己の将来目標の設定に必要な知識や情報収集に関する感想文を書ける」において「60%」以上の達成度と自己評価した学生は90%に及んでいる。なお本学CS(Customer Satisfaction)室では、3年に一度学生が入社した企業の人事担当者を対象に本学出身学生の企

	1年次	2年次	3年次	4年次
13年度入学	2.19	2.09	2.17	2.30
14年度入学	2.18	2.14	2.21	2.34
15年度入学	2.31	2.23	2.26	2.36
16年度入学	2.24	2.30	2.43	2.48
17年度入学	2.35	2.39	2.44	2.50
18年度入学	2.33	2.38	2.47	2.54
19年度入学	2.33	2.40	2.50	2.56
20年度入学	2.29	2.42	2.45	2.53
21年度入学	2.36	2.42	2.45	
22年度入学	2.38	2.41		
23年度入学	2.48			

業での能力についてアンケート調査を行っている。17・20年度の調査結果を比較すると、企業が学生に求める能力(コミュニケーション、勤勉、挑戦、誠実、自立性、知的好奇心、情報分析、リーダーシップ、キャリア形成など)20項目すべてにおいて評価が上昇しており、早期離職者が少ないとの報告もある。

4. 今後の課題

キャリア教育は大学における正課・正課外学習や活動など学修全体で考える必要がある。たとえば、4年間の学修プログラムをキャリア教育の観点から捉え直すことである。留意すべき点は、特定のキャリア教育科目のみで担うのではなく、開講科目のすべてにおいて適度なキャリア教育・職業教育を組み入れることである。このような手法を「マイクロ・インサーション(micro insertion)」という。つまり、キャリア教育は単にキャリア教育科目を設定するだけではなく、あらゆる科目にその一部を意識的に取り込むことが必要である。学生に夢と現実を冷静に対比させる機会を与え、より具体的な人生設計、ロードマップ作成を考えさせることが重要となるはずである。本学はそれらを前提とした教育体系の構築を目指しており、多くの科目で実践されつつあるが、まだ十分とは言えない。専門課程教員の半数が企業出身であり、その実績と強みを更に発揮できるカリキュラム設計を検討している。